

総会議案書



里山クラフト（つる細工）

日時 2022年5月

富田林の自然を守る市民運動協議会

総会次第

議事

- 第1号議案 2021年度 事業報告 P. 1
(生物多様性保全のための基礎調査～R3年度
「自然環境保全活用調査その20」報告書より抜粋～を含む)
- 第2号議案 2021年度 会計決算報告 P. 16
- 第3号議案 2021年度 会計監査報告 P. 17
- 第4号議案 2022年度 事業計画(案) P. 18
- 第5号議案 2022年度 予算(案) P. 20
- 第6号議案 2021年度 役員(案) P. 21

第1号議案 2021年度 事業報告

I. 2021年度の活動の概要

当協議会の活動は大きく分けて①自然環境保全の直接的な活動、②自然にかかわる文化的な活動、③自然観察、調査研究、提言活動を統一的にとらえて実施している。具体的には①に関しては「里山ホリデー」、「中野町竹林整備（市街化地域の自然保護）」、②に関しては「米作り体験（田植え、稲刈り、稲こぎ）」、「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんど（通常は餅つきを合わせて実施しているが2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から餅つきは中止し、書初めとどんど焼きのみとした）」、「里山生活入門」、「自然観察会（植物、昆虫、野鳥、水生生物、観察会入門）」、③に関しては「自然観察会（②と共通）」、「自然環境活用調査への協力」、「〈富田林の自然〉誌の発行」、「生物多様性保全に関する取り組み」などである。これらの活動は富田林の自然を守る会（以下守る会と略す）が行う活動の中で上記の行事を主催している。

一方、守る会は2019年度から設立30周年記念事業として、奥の谷において観察路の整備とその両側10mの里山的管理を実施しており、協議会の取り組みもこれに準じて実施した。

2021年度も新型コロナウイルスの感染拡大により協議会主催の多くの行事を中止した。また、「守る会の活動における「新型コロナウイルス感染防止のための指針」に基づいて人数制限などを実施した。

II. 具体的な活動

1. 自然環境保全活動（生態系保全活動）

(1) 里山保全活動

No.	開催日時			行事名	作業内容	参加人数			備考
	年	月	日			大人	子ども	計	
1	4	24	土	里山ホリデー	中止	—	—	—	
2	5	22	土	里山ホリデー	中止	—	—	—	
3	6	19	土	里山ホリデー	中止	—	—	—	
4	7	17	土	里山ホリデー	間伐材運搬	4	0	4	
5	11	13	土	里山ホリデー	間伐材搬出	6	0	6	
6	12	19	日	里山作業と交流会	観察路枯死木の伐採、交流会	13	0	13	
7	2	12	土	里山ホリデー	シイタケ精木整理	8	0	8	
8	3	12	土	里山ホリデー	シイタケ植菌	12	6	18	
参加者数合計(延べ)						43	6	49	

回	開催日時				参加人数			作業内容	備考
	年	月	日	曜	守る会スタッフ	一般(シニア自然カレッジ等)	計		
1	4	2	金		4	17	21	竹林整備・除草	竹林:チップバー作業を含む
2	5	7	金		—	—	—	—	中止(コロナ)
3	6	4	金		—	—	—	—	中止(コロナ)
4	7	2	金		—	—	—	—	中止(雨天)
5	8	6	金		—	—	—	—	中止(コロナ)
6	9	3	金		—	—	—	—	中止(コロナ)
7	10	1	金		4	16	20	竹林整備・除草	竹林:チップバー作業を含む
8	11	5	金		3	16	19	竹林整備・除草	竹林:チップバー作業を含む
9	12	3	金		3	12	15	竹林整備・除草	竹林:チップバー作業を含む
10	1	7	金		3	14	17	人工林間伐・除草	
11	2	4	金		—	—	—	—	中止(コロナ)
12	3	4	金		—	—	—	—	中止(コロナ)
参加者数合計					17	75	92		

表1に示すように協議会主催の「里山ホリデー（「里山保全と交流会」を含む）」では8回計画したが、3回が中止となり、実施できたのは後半の5回であった。延べ参加人数は49人であった。12月の活動では観察路の周辺の枯死木（主としてナラ枯れで枯死したコナラの大径木）の伐採を行った。里山保全活動は、このほか表2に示すように守る会の主催で取り組まれた「里山保全作業」（毎月第一金曜日、「大阪シニア自然カレッジ里山部会」の人たちが多数参加）もその多くが中止となった。

守る会は表3に示すように世話人を中心に1人～数人による自主活動として174回作業を行い延べ426人が参加した。自主活動では草刈りをはじめ上記の行事が中止となり実施できなかった作業を補うものとなった。また、施設整備班が物置小屋の建設などを精力的に行った。

守る会とNICE（日本国際ワークキャンプセンター）と共催して1999年から毎年実施している国際ワークキャンプも2年連続して中止となり、守る会が受け入れて実施する自然環境市民大学（公益社団法人大阪自然環境保全協会主催）も中止となったが、新・里山講座（同協会主催）は人工林の間伐実習として実施した。

このほかNICEの関連では週末ワークキャンプが7回（7, 10, 11, 12, 1, 2, 3月）、名古屋商科大学学生13人によるグループワークキャンプ（9月2日～11日）、神戸大学学生11人によるグループワークキャンプ（3月12～25日）が行われた。これらの作業は主

月	回数	延べ参加者数				作業
		会世話人	世話人以外	子ども	合計	
4	6	10	4	0	14	水田準備、工作、道具小屋建設、草刈り、畑づくり、施設整備、田の草取り、材木搬出など
5	19	1	57	0	58	
6	9	0	16	0	16	
7	17	0	44	0	44	
8	16	0	34	0	34	
9	11	0	20	0	20	
10	14	2	39	0	41	
11	13	6	28	0	34	
12	19	3	36	0	39	
1	19	3	39	0	42	
2	16	11	33	0	44	
3	15	17	23	0	40	
合計	174	53	373	0	426	



人工林からの間伐材搬出

として人工林の間伐、皮むき、木材の搬出などであった。

(2) 石川河岸段丘の竹林整備（中野町）

太古の石川の河岸段丘崖が石川左岸側に延びており、竹林を中心とする自然植生が虫食い状に残されている。これらの自然は里

No.	開催日時				参加人数			作業内容
	年	月	日	曜	大人	子ども	計	
1	2021	4	11	日	—	—	—	中止
2		4	18	日	—	—	—	中止
3		5	18	火	—	—	—	中止
4		6	15	火	—	—	—	中止
5		7	13	火	2	0	2	散策路草刈り、東側法面新竹切
6		8	15	日	—	—	—	中止
7		9	18	土	—	—	—	中止
8		10	12	火	—	—	—	中止
9		11	14	日	0	0	0	中止(参加者なし)
参加者数合計(延べ)					2	0	2	

山の自然とは異なるが、市街化区域に隣接する自然として極めて重要であると考えられる。これらの中でも中野町の竹林は比較的まとまった形で残されている。協議会は2009年から自然豊かな地域の憩いの場として整備している。

当竹林は岸本忠三氏をはじめ竹林の地権者から市が寄贈を受けることが決まっている。2021年度から市の管理となる予定であったため協議会は月1回植生などの調査を実施する予定になっていたが、移管の作業が遅れており、2021年度は協議会の管理となった。そのため調査予定日を管理に変更したことや新型コロナウイルスの影響もあり、多くが中止となり実施できたのは7月の1回のみとなった(表4)。一方、表5に示すように、守る会は世話人を中心に1人～数人による自主活動として29回作業を行い延べ44人が竹林管理作業に参加した。

10月22日、協議会会長が市と共に岸本忠三氏と面会し、市への移管後の名称および説明文について話し合い、資料1のように合意した。この説明版をエントランス広場に掲示することとなった。その後の役員会において説明版に岸本氏のプロフィール(資料2に例文)を添えることとした。

2022年度に正式に市に譲渡され、フェンスや園路の整備などの後、業者委託して生物多様性保全に配慮した管理を進めることとなった。

この竹林における比較的貴重と考えられる植物として次のものが確認されている。キケマン、ウラシマソウ、マムシグサ(近隣の里山から種子を採取し苗を移植したもの)、ヤブカンゾウ、センダングサ、オオシマザクラ(2012年に近隣の里山から記念樹として移植したもの)。また、昆虫類ではヒメボタルおよびカブトムシが鳥類ではカルガモが確認されている。

協議会では「中野町竹林における植生管理の方策」として区域別に管理上の留意点を提示している。また、適宜調査を実施して順応的管理の方策を提言することとしている。

月	回数	参加者数				作業
		会世話人	世話人以外	子ども	合計	
4月	4	4	13	0	17	竹の伐採、チップバー作業、草刈りなど
5月	3	5	0	0	5	
6月	1	4	0	0	4	
7月	2	2	0	0	2	
8月	15	11	0	0	11	
9月	2	3	0	0	3	
10月	1	1	0	0	1	
11月	1	1	0	0	1	
12月	0	0	0	0	0	
1月	0	0	0	0	0	
2月	0	0	0	0	0	
3月	0	0	0	0	0	
合計	29	31	13	0	44	

中野町竹林の市への移管後の名称および説明文について (2021年10月22日、岸本氏と合意)

資料1

名称：岸本記念自然緑地公園

説明文

この竹林は元弘年間に楠正成の千早城、赤坂城を守る出城の一つとして伝えられる城跡で、太古の石川の河岸段丘の一部です。

「富田市の自然を守る市民運動協議会」が岸本忠三氏をはじめ地権者の了解のもと、2009年から12年間にわたって整備を行ってきました。整備作業は近隣住民の方々との協力のもと、「富田市の自然を守る会」のボランティアによって進められ、2011年にはNICE(日本国際ワークキャンプセンター)の活動として台湾のボランティア団体のVYA(Vision Youth Action)、2011年～2012年にはフランスの青年2人が中長期ボランティアとして整備作業に関わりました。当初は生竹や枯死竹が密集し荒れた竹藪でしたが、密度管理された美しい竹林となり、ヒメボタルやカブトムシなどの昆虫の生息地、カモやホトトギスなどの野鳥の飛来地として生物多様性が向上しました。住宅地や工業団地に囲まれた当地が、生物多様性の高い緑地として保全されるようになったことは、富田市の自然環境保全やまちづくりにとって大切なことです。

2021年にこの竹林の大部分の地権者である岸本忠三氏をはじめ、北側の一部の地権者である江川忠義氏、岸本忠二氏、田中澄子氏からのご厚意により富田市の寄贈を受け管理することとなりました。今後はこれらの成果を引き継ぎ、身近な自然を育み生物多様性豊かな、そして地域人々の憩いの場として活用できる緑地として整備していきます。

2021年〇〇月
富田林市

プロフィール(例)

資料2

1939年(昭和14年)富田林市に生まれる。元大阪大学総長、大阪大学名誉教授。インターロイキン-6の発見者で、関節リュウマチの治療薬を開発。免疫学の世界的権威として知られている。1998年、文化勲章を受賞。2009年、日本人初となるクラフォード賞を受賞。富田林市中野町在住、富田林市名誉市民。



キケマン

2. 文化的活動（自然とふれあい、自然に親しむ活動、自然への理解を深める活動）

(1) 米作り体験

奥の谷の水田（約 300m²）を借地し、米作りを実施。協議会の行事としては表 6 に示すように①田植え、②稲刈り、③稲こぎ（脱穀）を行った。田植えはコロナ禍で中止となったため、自主活動として実施した。三行事を通じた延べ参加人数は 67 人であった。水田の耕耘、苗代づくり等田植えの準備、田植え後の水の管理、田の草取りなどは守る会が行った。



稲こぎの後レンゲの種まき

回	行事名	月	日	曜	参加人数			計	内容	備考
					世話人	世話人以外	子ども			
1	田植え	6	5	土	9	5	3	17	手植え、モチ田のみ実施。ウルチ田は13日に延期して実施	中止となり自主活動
2	稲刈り	10	16	土	9	26	0	35	ノコギリ鎌、はざかけ	ウルチ田、モチ田
3	稲こぎ	10	31	土	7	6	2	15	足踏み脱穀機、篩、唐箕	ウルチ田のみ実施。モチ田は5日に自主活動で実施
参加者数合計					25	37	5	67		

(2) その他の文化的行事

その他の文化的行事を表 7 に示す。「春の野草を食べる会」、「里山クラフト」、「どんど」、「里山生活入門」を計画したが、実施出来たのは「里山クラフト」と「とんど」であった。「どんど」についてはこれまで餅つきを行っていたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から餅つきを中止し書初めとどんど焼きのみで実施した。



どんど

回	行事名	開催日			参加人数			計	内容	
		年	月	日	曜	世話人	世話人以外			子ども
1	春の野草を食べる会	2021	4	29	水	—	—	—	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。	
2	里山クラフト		11	23	火	3	11	5	19	蔓植物の採取、つる細工
3	どんど	2022	1	16	日	7	19	4	30	例年餅つきも実施していたが、新型コロナウイルスを考慮して書初めとどんど焼きのみとし、購入した餅で雑煮などを実施した。
4	里山生活入門		1	30	土	—	—	—	—	参加申し込みがなく中止した。
参加者数合計					10	30	9	49		

里山クラフトは蔓細工を中心に佐々木氏を講師に実施した。午前中は山に入りフジ、アケビ、アオツラフジなどの蔓を採取し、午後はそれを用いて籠作りを行った。子ども 5 人を含め 19 人の参加であった。

3. 自然観察・調査研究・政策提言活動など

(1) 自然観察

自然観察会は表 8 に示すように、コロナ禍で中止となったものも多かったが、植物観察会 3 回、水の生き物観察会、昆虫観察会、野鳥観察会、観察会入門を実施することができた。実施した観察会を通じての延べ参加者数は 90 人であった。



水の生き物観察会

回	行事名	開催日			参加人数			観察した主な生き物	備考	
		年	月	日	曜	世話人	世話人以外			子ども
1	植物観察会		4	17	土	—	—	—	中止	
2	植物観察会		5	16	日	—	—	—	中止	
3	植物観察会		6	11	日	—	—	—	中止	
4	水の生き物観察会		6	26	土	4	2	5	11	オホマシヤン(ニホンアカガエル)、メダカ、モノアラガイ、シマゲンゴロウ、マツモムシ、ヤゴ(3種)
5	植物観察会	2021	7	12	日	2	1	2	5	オホマシヤン、ゲンジボウフウ、シヤルビク、タイコンソウ、ニガナ、ノアザミ、ノコン、クナギなど37種
6	昆虫観察会		7	24	土	7	10	13	30	ノコギリクワガタ、センチコガネ、タマムシ、ミヤマアカネなど18種
7	植物観察会		8	7	土	—	—	—	—	中止
8	植物観察会		9	19	土	—	—	—	—	中止
	植物観察会		10	23	土	5	8	1	14	ドングリ5種(コナラ、アラカシ、シリブカガシ、コジイ、マテバシイ)
9	植物観察会		11	21	日	2	2	1	5	
10	野鳥観察会	2022	2	20	日	4	14	1	19	カルガモ、コガモ、カワウ、トビ、モズ、マシロ、ハワセキレイ、アオジなど28種
11	観察会入門		2	26	土	3	2	1	6	
参加者数合計(延べ)							39	24	90	

(2) 自然環境保全活用調査

富田林市が里山倶楽部に委託した調査に、協議会が協力して調査に参加した。今回の調査は富田林の生物ホットスポットについての文献調査とそれに基づく生物多様性保全の視点からの提案であった。また、補足調査として中小企業団地のミゾコウジュの現地調査であった。活用調査その20として調査報告書にまとめられた。本経過報告の末尾に調査概要を掲載する。

(3) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

富田林市緑の基本計画は2019年3月に新しく策定され、3年を経過したが計画のほとんどが未着手となっている。計画ではPDCAサイクルで進行管理をすることになっている。2020に当協議会で進行管理を行うこととなったが、その後も具体的には進んでいない。あらためてPDCAサイクルによる進行管理の方策について議論することになった。

(4) 生物多様性保全について

多くの市民に生物多様性の重要性の認識を広めようと、2022年2月19日に生物多様性保全講演会を企画したが、延防止等重点措置となり中止した。引き続き富田林における生物多様性地域戦略の策定をめざして議論を進めている。

(5) 森林環境譲与税の使途について

2019年度から森林環境譲与税が国から地方自治体に分配されている（2024年度から住民税納税者1人当たり年間1,000円が課税される。譲与税はそれに先立って分配されている）。市はその全額を基金として貯蓄し、地元材（富田林市内の材ではなく河内長野市など近隣の材）を用いて新庁舎のフロントや会議室などを木質化する計画となっていた。富田林の自然を守る会から全額を富田林市内の森林環境保全に使用すべきとの要望があり（2021年3月）、協議会ではその方向で議論されている。

(6) 冊子「富田林の自然」No. 19の発行

2020年3月発行予定であったが、発行が遅れており、できるだけ早く発行できるよう準備を進めている。

(7) 守る会などによる調査

① モニタリング 1000 里地調査（以下モニ 1000 と略す）

モニ 1000 里地調査は環境省が日本自然保護協会（以後 NACS-J と略す）に委託して実施している調査で、守る会は 2009 年から植物およびチョウの調査を奥の谷で行なっている。2021 年は 13 年目となる。

植物の調査は 2021 年 4 月 23 日、5 月 27 日（雨天中止）、6 月 25 日、7 月 23 日、8 月 27 日、9 月 24 日、10 月 22 日、11 月 26 日、12 月 24 日、2021 年 1 月 28 日（コロナで中止）、2 月 25 日、3 月 11 日に実施した。

チョウの調査は 2021 年 4 月 9 日、5 月 14 日、6 月 11 日、7 月 9 日、8 月 13 日（雨天中止）、9 月 10 日、10 月 8 日、11 月 12 日、2021 年 3 月 25 日に実施した。2021 年 1 月、2 月は冬季のため実施予定外であった。

② 錦織公園の植生調査への協力

守る会は保全協会の都市公園自然調査研究会が行なう錦織公園での調査に協力した。2021 年秋に錦織公園内の植生調査を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止した。

③ フクロウの調査への協力

守る会は大府立大学のフクロウ調査に協力した。奥の谷に設置した巣箱にフクロウが営巣し、4 月に 2 羽の雛の足にリングを装着した。また、他の巣箱にはムササビが入っているのが確認された。



フクロウの雛

4. 自然保護活動への支援・援助

国際ワークキャンプ

1999 年から毎年実施してきた行事で毎年援助を行っているが、2021 年も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催が中止された（2020 年も中止であった）。

5. 協議会参加団体の活動

(1) 金剛の自然環境を守り育てる会

住宅開発で失われる近隣の自然環境に危機感を持ち、寺池台三丁目住民有志で立ち上げた会で 16 年になる。会員の高齢化に伴い活動内容は限定され寂しい限りであるがせめて次世代にこの環境を残したいと月 2 回活動している。

連絡先：喜田光子. 〒584-0073 富田林市寺池台 3-15-10

TEL 0721-28-4737



(2) 特定非営利活動法人 里山倶楽部

里山倶楽部は、「新しい“里山的” 生き方・暮らし方 の提案」をコンセプトとして、里山の保全管理や環境教育に関するさまざまな事業を行なっています。会員は約 120 名。河南町の里山や富田林市の嶽山ふもとの果樹園などで、ボランティアの仲間が楽しみながら、雑木林や棚田、果樹林の保全活動を行なっています。

<講座および自由参加活動>

- 里山ボランティアの日（里山体験） ● 里山日和（里山体験） ● 里山っ子クラブ（子供対象）
- もりあん（技術講習） ● 弘川千年の森（協働事業） ● ツリーイング（木登り）
- 里山と暮らす応援講座（里山実習） ● 源流米パラダイス（棚田の保全活動）
- スマールファーム自給塾（農業研修）

<生産販売事業>座

- 里山事業部（森林作業請負、炭・薪等の生産販売）
- 里山倶楽部自然農場（無農薬米、野菜等の生産販売）

<まちづくり・調査研究活動>

- 里山バイオマスエネルギー事業部（薪炭林のエネルギー化研究）
- 里山環境教育オフィス（企業・行政との協働事業、ワークショップ等の受託事業）



里山と暮らす応援講

連絡先：寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

(3) 石川自然クラブ

石川自然クラブは、石川河川公園でのボランティア活動として、石川の自然について学び、考え、調べ、遊び、行動することを通じて、石川本来の川の流れや河原の自然環境をとりもどし、地域の暮らしと共生する自然豊かな川づくりを行なうことをめざして、以下のような活動を行っています。

- ① 石川の自然や生きものについての学習・観察・調査
- ② 石川の自然についてのPR活動
- ③ 石川の自然にふさわしい整備や管理についての共生型技術の検討・提案
- ④ 石川流域におけるネットワーク活動

毎月一回、第二木曜日に、石川に生息する希少な生きものを守る「自然ボランティア」活動、各季節に植物・魚・昆虫・動物・野鳥の自然観察会も実施しています。また、「石川自然公園自然ゾーン計画運営協議会」では、行政や地元町会と協働して石川の自然についての様々な取り組みを行っています。



連絡先：寺川裕子, 〒584-0024 富田林市若松町 4-20-6, TEL 072-333-0309

(4) 嶽の会

2022年1月29日の里山生活入門講座は参加者なしのため中止、他の活動もコロナ等の関係で実施できませんでした。

連絡先：上角敦彦, 〒584-0024 富田林市若松町 4-6-29, TEL 0721-24-8757

(5) 竜泉・里山クラブ

当クラブの作業は、4月にミカンの剪定枝の収集・焼却に始まり、年末のミカンの採果で、一段落します。

その間に例年通りの作業をしました。小屋裏の栗の剪定、椎茸菌の駒打ち、年2回の竹炭・竹酢液の製造、竹の間伐、好評の里芋・さつまいもの植え付。加えてキーウイ、隼人瓜、山うど、下仁田ネギ等の栽培をしており畑はいっぱいです。

嬉しいことに養蜂が順調で、巣箱10箱を設置し、蜜が年間8キロ採れました。分蜂の捕獲も慣れてきたところです。

また当クラブは、雨水を飲料にしています。ろ過装置に竹炭を使っており会員が当番で清掃をしています。

竹製の植木鉢、竹灯籠、足踏みをイベント販売用に制作しましたが、開催が無く残念でした。会員は18人と減少、高齢化をたどっており、新規会員の獲得が急務です。

連絡先：代表 前田 妙子 大阪狭山市東茱萸木 1-1797-12



(6) NPO 法人学びと育ち南河内ネットワーク

NPO 法人「学びと育ち南河内ネットワーク(略称「まなそだネット」)」は、富田林を中心とした子ども達の学びと育ちを支援するために、2018年に府立富田林高校の同窓会が中心となって設立されました。そして、「科学教室力塾」の「探究教室」では、「まなそだネット」の「スカラシップ魁(さきがけ)」の奨学制度を受け、多くの中学生・高校生が自分の可能性を最大限伸ばしたいと研究活動を行っています。自然に恵まれた南河内地域を主なフィールドとして活動し、研究を深化させ、毎年、科学コンテストや学会などで全国レベルの成果を上げています。



石川の魚類相調査の様子
(2021年10月、高橋付近)

「力塾・探究教室」のコンセプトは「探究」と「貢献」です。研究テーマは地域への貢献を意識し、得られた成果は地域貢献という形で発信し、行動しています。2021年度は、富田林生涯学習課のご協力の下、富田林市立中央公民館主催の「高校生と考える自然探究講座」を開催し、研究成果を地域に発信しました。「南河内の豊かな自然を後世に！」をテーマに、2021年12月4日(土)～2022年1月15日(土)の4回シリーズで、「探究教室」の高校生や大学生スタッフが講演を行いました。講演のテーマは、「石川に生息する2型のアユ」「富田林のツバメの子育て」「河内長野に生息するオオシマドジョウとタイリクバラタナゴ」「金剛山に生息するイワナとクガビル」「神出鬼没の淡水クラゲ」「60年間の石川の魚類相の変遷」「コンクリート水路に生息するゲンジボタル」と多岐にわたりました。

連絡先：小川力也、〒584-0032 富田林市常盤町15-10 石田ビル3階， TEL0721-55-4682

(7) 富田林の自然を守る会

協議会参加団体の内「守る会」の活動については協議会の活動と一体的な部分が多くそれらは上記協議会の活動報告に記載した。2019年度から班体制を確立し定着したことにより、いくつかの活動が大き

く前進した。2020年度に引き続き施設整備班の活動により、みかん小屋2Fの床張り、道具小屋の建設（薪小屋の大改修）など施設の整備が大きく進んだ。

また、NICEの活動として、国際ワークキャンプは2021年度も新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかったが、週末ワークキャンプに加えて、名古屋商科大学(9月)および神戸大学(3月)によるグループワークキャンプを受け入れ人工林(NICE forest)の間伐整備が進んだ。



グループワークキャンプの皆さん

2021年3月に市長あてに要望書を提出し、①森林環境譲与税の有効用、②生物多様性地域戦略の早急策定、③富田林市緑の基本計画の実施を要望した。森林環境譲与税の有効な活用により実施できていない緑の基本計画の具体的な実施や里山の生物多様性の保全が大きく前進するものと期待され、当協議会においても議論が進められている。

連絡先：田淵武夫、〒584-0024 富田林市若松町4-16-21、TEL 090-8888-3912

6. 2021年度の活動などで特徴的だったこと

- (1) 当協議会に新たに「NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク」が加わった（「石川自然クラブ」は団体としては閉会し、活動内容は石川河川公園事務所の事業として引き継がれたため構成団体から除外した。また、「富田林勤労者山岳会「嶽の会」」は、富田林勤労者山岳会が解散し、「嶽の会」として活動しているため団体名を変更した）。
- (2) 中野町竹林について岸本忠三氏と話し合い、市に移管後の名称および説明文が合意された（名称は「岸本自然緑地公園」）。
- (3) 中野町竹林のヒメボタルが多数発生し多くの見物者があった。
- (4) みかん小屋の床および腰板張り、道具小屋の建築など拠点地の整備が進んだ。
- (5) 守る会が名古屋商科大学と神戸大学のグループワークキャンプを受け入れた（NICE）。
- (6) 自然を守る会が林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金（さとり交付金）」770,000円を受けた。
- (7) 新型コロナ緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などが出され、多くの行事が中止となった（緊急事態：4月25日～6月20日；8月2日～9月30日）、（まん防：6月21日～8月1日；1月27日～3月21日）
- (8) 守る会では少人数で感染防止に十分配慮した自主活動で多くの事業が進められた。

7. 会議

(1) 役員会

2021年4月9日（金）、5月7日（金）（新型コロナで中止）、6月25日（金）、7月30日（金）、8月20日（金）（新型コロナで中止）、9月24日（金）（新型コロナで中止）、10月15日（金）、11月19日（金）、12月17日（金）、2022年1月20日（木）、2月18日（金）、3月30日（水）。

(2) 会計監査

2022年3月31日（木）。

(3) 総会 2022年5月9日（月）。

生物多様性保全のための基礎調査 ～R3年度「自然環境保全活用調査その 20」報告書より抜粋～

1. 生物多様性保全のための基礎調査

(1) 富田林の生物ホットスポットについての文献調査

① 調査文献

富田林市の「生物多様性地域戦略」の策定に向けたデータ収集として、既存の文献から市域の生物多様性についての「ホットスポット※」の情報をピックアップした。調査した既存文献はそれぞれ目的が異なりデータの精度もまちまちであるが過去の記録として重要であり、生物多様性保全の基礎データになる。今回調査したのは下記の文献である。このうちNo.5 モニタリングサイト 1000 は、専門知識をもつアマチュアによる調査である。

※希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域（大阪府レッドリスト 2014 より）

No.1 大阪府 生物多様性ホットスポット、地形・地質レッドリスト

- ・調査時期 2000 (H12) ～ (大阪府レッドデータブックの改訂版)
- ・調査場所 大阪府内
- ・調査者 大阪府レッドリスト改訂検討委員会
- ・掲載文献 大阪府レッドリスト 2014
<https://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>

No.2 大阪府 自然環境保全地域

- ・調査時期 2004 (H16) 年
- ・調査場所 大阪府内
- ・調査者 大阪府
- ・掲載文献 大阪府 Web サイト
<https://www.pref.osaka.lg.jp/midori/midori/sizen.html>

No.3 富田林市 指定保存樹林

- ・調査時期 1991 (H3) 年
- ・調査場所 富田林市内
- ・調査者 富田林市
- ・掲載文献 富田林市「緑の基本計画」 2007 (H19) 3月
<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/uploaded/attachment/2165.pdf>

No.4 特定植物群落（自然環境保全基礎調査 第2回、第3回、第5回）

- ・調査時期 1978 (S26)、1983 (S31)、2001 (H13)
- ・調査場所 全国
- ・調査者 環境庁自然保護局
- ・掲載文献 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書
https://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_list_h.html

No.5 モニタリングサイト 1000

- ・調査時期 2019 (R1) 年
- ・調査場所 全国
- ・調査者 全国のボランティア団体（富田林市：富田林の自然を守る会）
- ・掲載文献 2000年度モニタリング調査 1000 里地調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/>

② 富田林市の生物ホットスポット

これらの文献に記載された富田林市内のエリアは、以下のとおりである。

	エリア	位置づけ	備考
1	天野川ー石川の河川争奪跡 および段丘	地形・地質レッドリスト	大阪府レッドリスト 2014
2	石川周辺	生物多様性ホットスポット Cランク	大阪府レッドリスト 2014
3	美具久留御霊神社	生物多様性ホットスポット Cランク	大阪府レッドリスト 2014
		自然環境保全地域	大阪府
		市指定保存樹林	富田林市
		特定植物群落	自然環境保全基礎調査
4	春日神社	市指定保存樹林	富田林市
		特定植物群落	自然環境保全基礎調査
5	錦織神社	市指定保存樹林	富田林市
6	滝谷不動明王寺	市指定保存樹林	富田林市
7	佐備神社	市指定保存樹林	富田林市
8	奥の谷	モニタリングサイト 1000	富田林の自然を守る会

さらに、平成28年度から実施している本調査（「生物多様性保全のための基礎調査」）で、動植物について比較的良好に調査されており、多くの絶滅危惧種が記録されている箇所として、「奥の谷」「錦織公園」「石川」があげられる。

<過去の調査データの絶滅危惧種数>

指定種 エリア	植物		昆虫		鳥類	
	国 RDB	府 RDB、指定	国 RDB	府 RDB	国 RDB	府 RDB
奥の谷	2	13	5	12	1	3
錦織公園	5	25	0	0	9	29
石川	8	1	4	11	3	17

これらの情報を加味すると、富田林市の生物ホットスポットとしては以下の8ヶ所が重要になると考えられる。ただし、これらは過去の文献調査のみに基づく抽出であり、さらに検討が必要である。

- 1) 石川 : 本流や河川敷、周辺緑地、河川争奪跡および段丘 など
- 2) 奥の谷 : 里山林、棚田、耕作放棄地、池・湿地 など
- 3) 錦織公園 : 里山林、池・湿地 など（公園未利用地を含む）
- 4) 美具久留御霊神社 : 典型的なシイ林（樹齢200年、ナナメノキ、アラカシ、ヒサカキなど）
- 5) 春日神社 : シリブカガシ林（シリブカガシ、アラカシ、ヒノキ、コジイなど）
- 6) 錦織神社 : コジイ、スギ、ヒノキ、クスノキ など
- 7) 滝谷不動明王寺 : アラカシ、ヒノキ、モミ、スギ、アカマツ など
- 8) 佐備神社 : サカキ、クスノキ など

<過去の調査データの絶滅危惧種 ～植物～>

	科名	種名	奥の谷	錦織公園	石川	備考
1	アカウキクサ科	オオアカウキクサ			●	国：Ⅰ類、府：絶滅
2	アブラナ科	コイヌガラシ			●	国・府：準
3	アヤメ科	ノハナシヨウブ		●		府：Ⅰ類、指定
4	アリノトウグサ科	フサモ		●		府：Ⅰ類
5	イチヤクソウ科	シャクジョウソウ	●			府：準、指定
6	オトギリソウ科	ミズオトギリ		●		府：準
7	オミナエシ科	オミナエシ	●	●		府：絶滅
8	ガガイモ科	スズサイコ	●	●		国：準、府：Ⅱ類準
9		タチカモメヅル	●			府：Ⅱ類
10	ガマ科	コガマ		●		府：準
11	カヤツリグサ科	イガクサ		●		府：Ⅰ類
12		イトテンツキ			●	国：準、府：不足
13	キキョウ科	キキョウ		●		国・府：Ⅱ類、指定
14		サワギキョウ		●		府：準、指定
15	キク科	オオニガナ		●		指定
16		オケラ		●		府：Ⅱ類
17		オナモミ	●		●	国：Ⅱ類、府：絶滅
18		キセルアザミ		●		指定
19	ゴマノハグサ科	カワヂシャ		●	●	国・府：準
20	シソ科	ミゾコウジュ			●	国・府：準
21	スミレ科	アケボノスミレ	●			府：Ⅰ類
22	セリ科	ムカゴニンジン		●		府：準
23	タデ科	コギシギシ			●	国：Ⅱ類、府：準
24	タヌキモ科	タヌキモ		●		府：Ⅰ類
25	マメ科	カワラケツメイ			●	府：準
26		タヌキマメ		●		府：Ⅱ類
27	ミツガシワ科	ガガブタ		●		府：Ⅱ類、環 RDB：準
28	モウセンゴケ科	イシモチソウ		●		府：Ⅱ類、国：準、指定
29		コモウセンゴケ		●		府：準
30	ユキノシタ科	タコノアシ			●	国・府：準
31	ユリ科	ササユリ	●	●		指定
32		ショウジョウバカマ	●	●		指定
33		ノシラン	●			府：不足
34	ラン科	オオバノトンボソウ	●	●		指定
35		カキラン		●		指定
36		キンラン		●		国・府：Ⅱ類、指定
37		コクラン	●	●		指定
38		シュンラン	●	●		指定
39		ミヤマウズラ	●	●		指定
40		ムカゴソウ		●		国：Ⅰ類、府：絶滅、指定
41	リンドウ科	センブリ	●	●		指定
42		リンドウ	●	●		指定
絶滅危惧種数			15	30	9	

<過去の調査データの絶滅危惧種 ～昆虫～>

	科名	種名	奥の谷	錦織公園	石川	備考
1	アオイトトンボ科	キイトンボ	●		●	府:準
2		ベニイトンボ	●		●	国・府:準
3	サナエトンボ科	オグマサナエ	●			国:準、府:Ⅱ類
4		フタスジサナエ	●			国・府:準
5	トンボ科	アキアカネ	●		●	府:準
6		ナツアカネ			●	府:準
7		ノシメトンボ	●		●	府:準
8	キリギリス科	キリギリス	●		●	府:準
9	コオロギ科	カワラスズ			●	府:不足
10	バッタ科	カワラバッタ	●		●	府:絶滅
11		セグロバッタ			●	府:Ⅱ類
12	マルムネハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ			●	府:Ⅰ類
13	コオイムシ科	コオイムシ			●	国・府:準
14	ガムシ科	ガムシsp.	●			国・府:準
15		コガムシ			●	国:不足、府:準
16	コガネムシ科	ドウガネブイブイ	●		●	府:準
17	テントウムシ科	シロジュウゴホシテントウ			●	府:準
18	ハンミョウ科	ハンミョウ	●			府:準
19	ホタル科	ヘイケボタル	●			府:準
20	ミズスマシ科	ミズスマシsp.	●			国・府:Ⅱ類
21	セセリチョウ科	オオチャバネセセリ	●			府:準
22		ホソバセセリ	●			府:準
23	タテハチョウ科	ミスジチョウ	●			府:準
24	ヤガ科	カギモンハナオイアツバ			●	国・府:準
25		シロシタバ	●			府:準
絶滅危惧種数			17	0	15	

<過去の調査データの絶滅危惧種 ～鳥類～>

	科名	種名	奥の谷	錦織公園	石川	備考
1	サギ科	アマサギ		●	●	府：Ⅱ類
2		ヨシゴイ		●		国：準、府：Ⅱ類
3	クイナ科	クイナ		●		府：準
4		ヒクイナ		●		国：準、府：Ⅱ類
5	カッコウ科	ツツドリ		●		府：準
6	ヨタカ科	ヨタカ		●		府：Ⅱ類、国：準
7	カモメ科	コアジサシ		●	●	府：Ⅰ類、国：Ⅱ類
8	シギ科	イソシギ		●	●	府：準
9		キアシシギ			●	府：準
10		クサシギ		●	●	府：準
11		ソリハシシギ			●	府：Ⅱ類
12		タカブシギ			●	国：準、府：Ⅱ類
13		タシギ			●	府：準
14	チドリ科	イカルチドリ		●	●	府：Ⅱ類
15		ケリ		●	●	国：不足、府：準
16		コチドリ		●	●	府：準
17		シロチドリ		●		国：準、府：Ⅱ類
18		タゲリ		●		府：準
19	タカ科	オオタカ	●	●	●	国・府：準
20		クマタカ		●		国・府：Ⅰ類
21		サシバ		●		国：Ⅱ類、府：Ⅰ類
22		チュウヒ		●		国・府：Ⅰ類
23		ツミ		●		府：Ⅱ類
24		ノスリ	●	●		府：準
25		ハチクマ		●		国：準、府：Ⅰ類
26	フクロウ科	アオバズク		●		府：Ⅱ類
27		オオコノハズク		●		府：不足
28		コノハズク		●	●	府：不足
29		コミミズク			●	府：Ⅱ類
30		フクロウ		●		府：準
31	カワセミ科	ヤマセミ		●		府：準
32	サンショウクイ科	サンショウクイ		●		府：Ⅱ類
33	セッカ科	セッカ		●	●	府：準
34	ツバメ科	コシアカツバメ		●	●	府：準
35	ヒタキ科	コサメビタキ		●		府：Ⅱ類
36		トラツグミ		●		府：準
37	ヒバリ科	ヒバリ		●	●	府：準
38	ホオジロ科	オオジュリン		●		府：準
39		カシラダカ	●	●	●	府：準
40		ホオアカ		●	●	府：準
41		ミヤマホオジロ		●		府：準
42	ムシクイ科	センダイムシクイ	●	●		府：準
43	ヨシキリ科	オオヨシキリ		●	●	府：準
絶滅危惧種数			4	38	20	

(2) 生物多様性保全の取組みについて

① 調査結果のまとめ

●生物ホットスポットの状況

- 1) 石川：富田林市域内の河南橋～梅川合流部付近は、石川河川公園「自然ゾーン」と位置付けられて多くの絶滅危惧種の植物、昆虫、鳥類が生育・生息しており、その一部では、公園の指定管理者や市民参加による保全活動が実施されている。
- 2) 奥の谷：比較的良好な里山林や棚田などがまとまって広がり、多くの動植物の生育・生息地となっている。市民団体（富田林の自然を守る会）による長年の継続的な維持管理によって、生物多様性ゆたかな自然環境が保たれている。
- 3) 錦織公園：園内に広い里山林や多数の池があり、指定管理者によって定期的な維持管理が行われている場所のほか、一般の園地利用がされていない森林や水辺も多く、生物多様性の観点からは人の立ち入らない未利用地が重要になっている。
- 4) 美具久留御霊神社：境内の背後に樹齢200年の典型的なシイ林が広がっており、社寺林としての管理が行われているが、竹林の拡大や台風による倒木被害などの状況が心配される。
- 5) 春日神社 6) 錦織神社 7) 滝谷不動明王寺 8) 佐備神社：いずれも社寺林として一定の管理がされているが、生物多様性保全面の管理はされていない。

② 生物多様性保全の視点からの提案

●生物ホットスポットとしての再調査

石川および奥の谷については、数十年前から市民参加による動植物調査や自然環境保全のための取組みがつづけられており、生きもののデータや絶滅危惧種の状況もある程度確認され、生物ホットスポットとしての具体的な様相が把握できる。

しかしながら、錦織公園やその他の神社については調査データが少なく、生物ホットスポットとしての具体的な評価や、今後に必要な維持管理内容などを検討しづらい状況と考えられる。そのため、現況を把握するための生きもの調査を行い、絶滅危惧種などが見られるか、過去に評価された自然環境が維持されているか、保全のための課題はなにか、などについて、今後の方針と取組みを検討する必要がある。

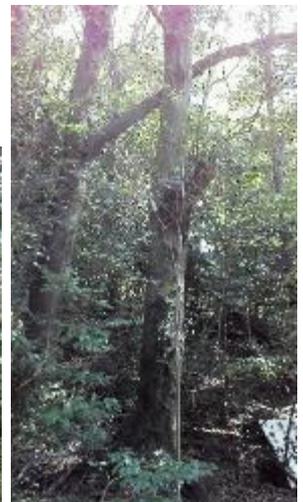
さらに、文献調査にもとづくこれら8箇所以外にも、生物ホットスポットに相当すると考えられる地域があり（嶽山、佐備、南原など H20～27「自然環境保全活用調査」参照）、今後の調査・検討が必要である。



錦織公園の里山林と池:2007



美具久留御霊神社のシイ林:2013



春日神社のシリブカガシ:2013

2. 補足現地調査（中小企業団地：ミゾコウジュ）

R2（2020）年12月に富田林中小企業団地（中野町）で、準絶滅危惧種のミゾコウジュが発見された。現地は周囲を工場や住宅地に囲まれた未利用の空き地で、大きなロゼットがおおよそ100株程度、広く点在している。生育地は高茎草本と一年草のまざる雑草地で一画には水のたまる湿地があり、ミゾコウジュが好む環境と思われた。周囲の同じような環境の空き地3箇所にはミゾコウジュは見当たらず、うち2箇所はその後（2021年1月）に耕起されたので、今回発見した場所だけが継続的に生育できる環境のようである。

発見後、近隣在住の土地所有者にヒアリングしたところ、昔から耕作利用などはしておらず、管理としては、年数回の草刈りと数年に一回程度の耕起（草の繁茂防止のため）を行っているとのことだった。中小企業団地が造成されるまでは（S56/1981年供用開始）、石川増水時に水につかる氾濫原だったと思われ、造成後に人為的に持ち込まれたのでなければ、造成時の種子が「埋土種子（生きたまま土壌中に埋もれている植物種子）」として保存され、その後40年間、毎年繁殖していた可能性がある。

大阪府でのミゾコウジュの状況について大阪市自然史博物館の専門家に確認したところ、以下のような意見を得ることができた。

- ・ミゾコウジュの種子の寿命は長く埋土種子の可能性はある。
- ・ミゾコウジュの大阪での分布は石川以外は淀川以北にしか知られていなかったと思われる。
- ・今では河川沿いにしか見られないが、昔は平野部の水田の畔や畑の縁にもあったと聞いている。
- ・大阪以外では今でも、和歌山では丘陵地の畑の縁、岡山では丘陵地のため池の水際に生えているのを見ているので、平野の氾濫原にしかないとはいえないが、今では見つけにくい。
- ・自然史博物館に保存されている標本は、石川流域で自生のものは1993年に喜志付近の石川左岸で採られた1点のみ（梅原徹氏採取）である。
- ・今回の中小企業団地のミゾコウジュはとても貴重な記録で、花の時期に標本を採るのが良い。



2020年12月の生育地のようす

<ミゾコウジュの開花状況>

2021/4/24



2021/5/15



2021/6/4



第2号議案 2021年度会計決算報告

収入					単位：円
項 目	予 算	実 績			前年度実績
		金 額	内 訳		
補助金	243,000	243,000	市からの助成金	243,000	270,000
行事参加費	50,000	28,200	生態系保全 (里山ホリデー)	3,900	24,900
			観察会(野鳥観察会、植物観察会、 観察会入門)	8,100	
			米作り (稲刈り、稲こぎ)	7,500	
			文化行事 (里山クラフト)	8,700	
寄付金	350,000	481,331	NICE週末	18,000	490,924
			神戸大学ワークキャンプ(みかん小屋11泊)	33,000	
			富田林の自然を守る会より	430,331	
総計	643,000	752,531			

支出					単位：円
項 目	予 算	実 績			前年度実績
		金 額	内 訳		
			内 容	金 額	
報償費	30,000	35,000	チェンソー講習、野鳥観察会、 里山クラフト		40,000
消耗品費	100,000	119,714	事務用品	200	110,905
			保全活動	58,152	
			畑など	7,660	
			その他	53,702	
郵送費	10,000	14,218	総会案内はがきなど	14,218	11,762
燃料費	70,000	91,355	軽トラ	10,000	75,152
			作業機械	66,111	
			発電機	15,244	
賄い材料費	30,000	7,034	イベントでの昼食材料など		23,209
備品費	30,000	52,590	LED投光器、糸鋸盤など		66,170
修理費	100,000	65,230	軽トラ12ヶ月点検、自走式 草刈り機修理など		124,559
施設管理費	50,000	152,762	事務所電気代	4,497	198,483
			施設整備費	148,265	
保険料	80,000	94,628	スポーツ安全保険、大阪里山保全 G傷害保険		85,584
使用料及び賃借料	30,000	30,000	水田使用料		30,000
国際ワークキャンプ費	100,000	0	中止		0
雑費	13,000	90,000	NICEリーダー交通費補助		20,000
総計	643,000	752,531			785,824

市助成金対象分(243,000円)

予算費目	内容	金額
報償費	チェンソー講習、野鳥観察会、里山クラフト	35,000
消耗品費	事務用品、保全活動、畑など	119,714
燃料費	軽トラ、作業機械、発電機	91,355
郵送費	総会案内はがきなど	14,218
備品費	LED投光器、エアコンプレッサー、バッテリー充電器、糸鋸盤	52,590
修理費	丸ノコ修理部品、軽トラ12ヶ月点検、薪割り機修理、チップパーおよび自走式草刈り機修理	65,230
施設管理費	守る会事務所電気代、火災報知器、間伐材製材代金、LED電球など	152,762
保険料	スポーツ安全保険、大阪里山保全G傷害保険	94,628
使用料及び賃借料	水田使用料	30,000
合 計		655,497

第3号議案 監 査 報 告 書

令和 4年 3月31日

富田林の自然を守る市民運動協議会
会長 田淵 武夫 様

会計監事 富田林の自然を守る市民運動協議会
理事 喜田 光子 

富田林の自然を守る市民運動協議会規約第6条に基づき、年度会計に関する監査を
下記のとおり実施したところ、次のとおりであったので報告します。

【 監査結果 】

事 項	意 見	指 摘 事 項	備 考
事業等の 実施状況	問題なし	特になし	
会計事務の状況	問題なし	特になし	
そ の 他	特になし	特になし	
総 括		適正・概ね適正・不適正	

第4号議案 2022年度事業計画（案）

1. 自然環境保全活動

(1) 里山保全活動

「里山ホリデー」と称して里山保全の作業を下記の日程で行う。作業の内容は、雑木林の下樵り、竹林整備と竹林の拡大防止、人工林の管理（間伐、枝打ち、皮むきなど）、休耕田・放棄田・溜池の土手などの草刈り、果樹の手入れ、自然観察路（作業路）造成・整備などとする。場所は奥の谷および南原とその周辺で、時間は原則として毎回10:00～15:00頃とする。

日程：2022年4月23日（土）、5月21日（土）、6月18日（土）、7月16日（土）、10月8日（土）、11月12日（土）、12月18日（日）、2023年1月14日（土）、2月11日（土）、3月11日（土）。なお、12月18日は「里山保全作業と交流会」と称して午前は里山保全作業を行い、午後は交流会とする。また、富田林の自然を守る会は30周年記念事業として協議会が2006年に提案した奥の谷周辺の観察路について、その両側約10mに里山的管理を実施する事業を2019年度より開始している。雑木林の下樵り、竹林整備、人工林の管理についてはこの計画を踏まえて実施する。

なお、新型コロナウイルス感染拡大がいまだに収束に至っていないことから、状況によってはこれらの行事を中止することもある。

(2) 中野町竹林管理

協議会が管理してきた中野町の竹林は岸本忠三氏をはじめ地権者の方々より富田林市が寄贈を受け、2022年度中に市が管理することで準備が進められている。2022年度中に必要な工事（通路の整備、フェンスの設置など）を終えた後に市が業者に発注して管理することになる。市の管理が実施されるようになるまでの間は、これまで通り協議会が管理することになる。また、これまで協議会が実施してきた「タケノコ堀り」や「新堂小学校のボランティア授業」の受け入れなど協議会が主催する行事はこれまで通り実施できるものとする。

2021年度の経過報告にも記したが、この竹林には比較的貴重と考えられる植物として次のものが確認されている。キケマン、ウラシマソウ、マムシグサ（近隣の里山から種子を採取し苗を移植したもの）、ヤブカンゾウ、センダングサ、オオシマザクラ（2012年に近隣の里山から記念樹として移植したもの）。また、昆虫類ではヒメボタルおよびカブトムシが鳥類ではカルガモが確認されている。

協議会では「中野町竹林における植生管理の方策」として区域別に管理上の留意点を提示している。また、適宜調査を実施して順応的管理の方策を提言する。また、近隣の里山などから採取した植物の移植などについても提言する。

協議会の活動日程

調査（ただし管理が市に移管されるまでは竹林整備活動とする）：2022年4月11日（月）、5月5日（木）、6月14日（火）、7月2日（土）、8月16日（火）、8月28日（日）、10月11日（火）、11月3日（木）、12月13日（火）、2023年1月7日（土）、2月14日（火）、3月4日（土）。
タケノコ堀り：4月16日（土）。

2. 文化的行事

(1) 米作り体験

借地している奥の谷の水田で有機栽培による米作りを行う。収穫した米は原則として各種行事に使用する。日程は次の通り。

- ①田植え：6月11日（土）10:00～15:00頃（予備日12日）。
- ②稲刈り：10月15日（土）10:00～15:00頃（予備日16日）。
- ③稲こ：11月5日（土）10:00～15:00頃（予備日11月6日）。

(2) 春の野草を食べる会

日時：4月29日（金；昭和の日）10:00～15:00頃（中止）。場所：奥の谷。

(3) 里山クラフト

日時：11月23日（水；勤労感謝の日）10:00～15:00頃。場所：奥の谷。

(4) どんどもちつき（新型コロナウイルス感染の状況によっては餅つきを中止することもある）

日時：1月15日（日）10:00～15:00頃。場所：奥の谷。

(5) 里山生活入門

日時：1月28日（土）10:00～15:00頃。場所：奥の谷

3. 自然観察・調査研究・提言活動

(1) 自然観察

①植物観察会

下記の日程でおこなう。原則として奥の谷を中心として実施するが、適宜地域を変更する。また、内容についても検討する。

日程:4月9日(土)、5月15日(日)、6月4日(土;金剛福祉センター～観心寺)、7月10日(日)、8月13日(土)、9月19日(月;敬老の日)、10月22日(土;どんぐり観察)、11月27日(日)、3月25日(土)。

②昆虫観察会

子どもを中心に、ネットによる自由採集、バナナによるベイトトラップ、ライトトラップ、夜間ルーフト観察などを行う。

日時:7月23日(土) 15:00～21:00頃。

場所:奥の谷。

③野鳥観察会

日時:2月19日(日) 9:00～13:00頃。

場所:近鉄滝谷不動駅～石川～春日神社～奥の谷。

④水の生き物観察会

「水の生き物池」で水生生物を採集・観察する。

日時:6月25日(土) 10:00～13:00頃。

場所:奥の谷。

⑤観察会入門(春を見つけよう)

早春の動植物を見つける。

日時:2月25日(土)

場所:奥の谷

(2) 自然環境保全活用調査 その21

富田林市が里山倶楽部に委託して行う調査に積極的に協力する。

(3) 冊子「富田林の自然」No. 20の発行

「富田林の生き物、自然景観、保全活動などを写真で紹介」、「専門家による自然保護に関する解説」、「富田林の生物調査などの紹介」、「自然環境保全活用調査の抜粋」、「協議会参加団体の活動紹介」、「協議会の活動報告」などを内容とする冊子を3月に発行する。

(4) 生物多様性保全の取り組み

「自然環境保全活用調査」において2016年度より「生物多様性保全のための基礎調査」が行われてきている。これらの調査をまとめて市民向けの講演会を実施する。また、これらの取り組みを踏まえて「生物多様性地域戦略」の策定に向けて検討する。

(5) 富田林市緑の基本計画の実現に向けて

計画で実施することになっているPDCAサイクルでの進行管理をどのように実施するかの検討を行う。また、森林環境譲与税の活用を含め具体的に計画が実行できるよう関係機関に働きかける。

(6) 森林環境譲与税の使途について

市内の森林の状況を調査し、具体的な検討を行う。当面は4月20日に緑の基本計画で保全配慮地区と位置付けられている東板持の森林を市と共に調査する(自然環境保全活用調査の現地調査を兼ねる)。

4. 自然保護活動への支援・援助

(1) 国際ワークキャンプ

「国際ワークキャンプ大阪富田林2022」が富田林の自然を守る会とNICEの共催で9月2日(金)～9月16日(金)の日程で開催される予定となっている。この取り組みへの助成をはじめ協力・支援を行う。

(2) 協議会加入団体への支援

当協議会加入団体への支援・援助を行う。

5. 会議

(1) 役員会:原則として毎月第3金曜日の10時～12時に市役所において開催する。

(2) 総会:2023年5月に市役所で開催する。

第5号議案 2022年度予算案

歳入

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減 (予算-前年度予算)	備考
補助金	243,000	243,000	243,000	0	
行事参加費	30,000	50,000	28,200	-20,000	
寄付金	350,000	350,000	481,331	0	自然を守る会から30万円を予定
雑収入	0	0	0	0	
繰越金	0	0	0	0	
総計	623,000	643,000	752,531	-20,000	

歳出

項目	予算	前年度予算	前年度実績	増減(予算-前年度予算)	備考
報償費	30,000	30,000	35,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	119,714	0	
郵送費	10,000	10,000	14,218	0	
燃料費	90,000	70,000	91,355	20,000	
賄い材料費	10,000	30,000	7,034	-20,000	
備品購入費	30,000	30,000	52,590	0	
修理費	60,000	100,000	65,230	-40,000	
施設管理費	5,000	50,000	152,762	-45,000	
施設整備費	40,000	—	—	—	
使用料及び賃借料	30,000	30,000	30,000	0	
保険料	90,000	80,000	94,628	10,000	
国際ワークキャンプ費	100,000	100,000	0	0	
雑費	28,000	13,000	90,000	15,000	
総計	623,000	643,000	752,531	-20,000	

第 6 号議案

富田林の自然を守る市民運動協議会 2022 年度役員(案)

役員名	氏 名	団 体 名
会 長	田淵 武夫	富田林の自然を守る会
副会長	上角 敦彦	嶽の会
会 計	上角 敦彦	嶽の会
会計監査	喜田 光子	金剛の自然環境を守り育てる会
理 事	寺川 裕子	NPO法人里山倶楽部
理 事	小川 力也	NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク

団 体 名	郵便番号	連 絡 先	電話番号
富田林の自然を守る会	584-0024	若松町四丁目16番21号	090-8888-3912
竜泉里山クラブ(代表:前田妙子)	586-0094	河内長野市小山田町3079-8	090-7118-2517
里山倶楽部	584-0024	若松町四丁目20番6号	0721-25-3128
嶽の会	584-0024	若松町四丁目6番29号	0721-24-8757
金剛の自然環境を守り育てる会	584-0073	寺池台三丁目15番10号	0721-28-4737
NPO法人学びと育ち南河内ネットワーク	584-0032	常盤町15-10 石田ビル3F	0721-55-4682

※緊急連絡先 田淵会長 携帯電話 090-8888-3912

オブザーバー参加 日本国際ワークキャンプセンター関西事務局

事務局	産業まちづくり部	森木 和幸	部長
		片岡 一浩	理事
	農とみどり推進課	山中 敬之	次長兼課長
		森本 浩明	課長代理
	みどり公園係	西田 圭佑	係長
		山口 はるか	係員
		河邊 昂平	係員

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号 富田林市役所
 電話 0721-25-1000 内線 424 FAX0721-20-2072
 Eメール nou@city.tondabayashi.lg.jp